

EA739XA-15
高度計

特長

本機は特に携帯用として小型、軽量設計された気圧目盛り付き高度計です。

シンプルで見やすいアナログ式の表示は、冬山のような低温の場所でもデジタル式のように液晶が消えて見えなくなるようなことはありません。

各部の名称



仕様

- ケース材質 :ABS樹脂
- センサ :アネロイド式気圧センサ
- 測定範囲 高度 0～4500m (1目盛50m)
- 気圧 580～1040hPa (1目盛5hPa)
- 使用温度範囲 :-30 ～ +80
- 誤差 :±5%±20m以内
- 外観サイズ φ66X68X25mm
- 重量 約65g
- 車載用ホルダー付

高度と気圧について

高度と気圧の関係

良く知られているように、高度が高くなるほど気圧は低くなります。このことから、気圧を測って、高度を計算することができます。

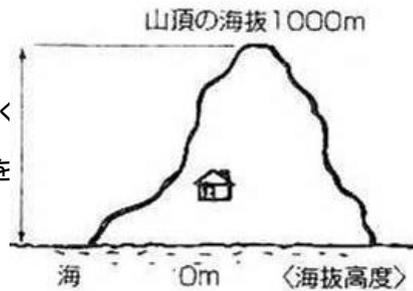
高度	気圧の差	温度 (1000m毎に6.5 下がる)
0～500m	12hPa/100m	15
501m～1500m	11hPa/100m	8.5
1501m～2500m	10hPa/100m	2
2501m～3500m	9hPa/100m	-4.5
3501m～4500m	8hPa/100m	-11

<国際標準大気より>

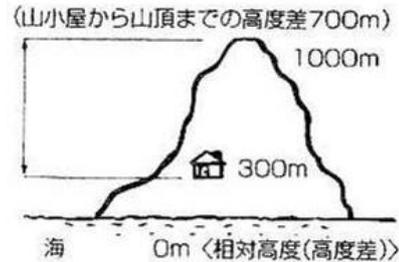
海拔高度と相対高度

高度には海面0mからの絶対的な高さを表す<海拔高度>と、ある地点からある地点までの高度差を表す<相対高度>があります。本機は上記の国際標準大気の高さと気圧の関係に基づき、高精度気圧センサを使って<相対高度>を算出します。

本機を使用して高度を計測中に気象条件などが大きく変化し気圧が急激に変わった場合には、高度による気圧の変化ではなく、気象の変化による気圧の変化を受けることになり、表示された高度に誤差が生じます。

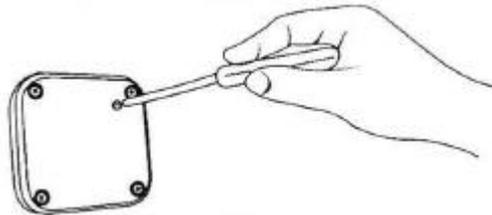


本機には「高度の補正機能」がついています。できるだけ正しい高度計測を行う為に、登山などを開始する時に高度の補正を行ってください。(高度計の使い方 参照)



気圧の調整

新聞やテレビなどで発表される気圧は普通、海面0mでの気圧に修正しています。これを海面更正といいます。海面更正するにはNHKラジオ第二放送の天気概況または新聞の天気図などで現在地のおおよその気圧を読み、それに合わせます。調整は本体裏にある気圧調整ネジを小さなマイナスドライバーでゆっくり回し、正しい目盛に合わせてください。



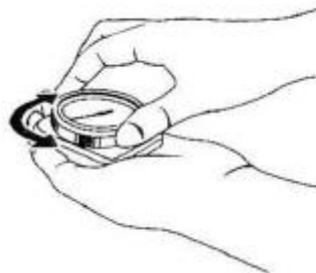
高度計の使いかた

上記で述べたように、本機は相対高度計なので登山などで、海面よりの絶対的な高さを示す<海拔高度>を知るためには、出発する地点の海拔高度を知って、その高度に合わせる必要があります。海拔高度は登山地図や、海岸・山などの標識に書かれています。

出発地点からの高度差を調べる場合には高度目盛の0を指針に合わせて出発すると、出発地点からの高度差を測定できます。(登りの場合)

高度補正のしかた

右図のように回転リングを回すと高度目盛が回転します。<海拔高度>を調べるのか<高度差>を調べるのかに合わせて高度目盛を指針に合わせてください。



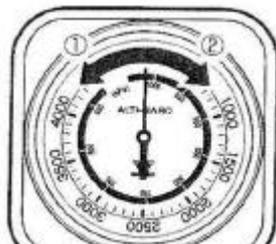
短時間に天候が大きく変化し、気圧も変動する時は1日に数回の高度補正が必要です。

天気予測のしかた

一般的に気圧が低くなると天候が悪くなり、気圧が高くなると天候が良くなります。場所を移動せずに使用する場合は、気圧の変化を見て天気予測ができます。

指針が左に動いたときは、気圧が上昇して天候は良くなります。

指針が右に動いたときは、気圧が下降して天候は悪くなります。





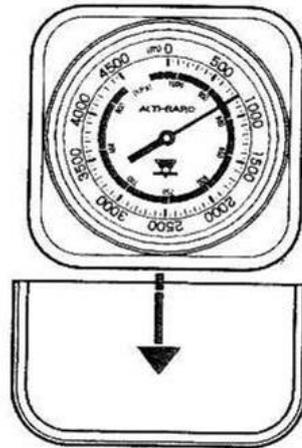
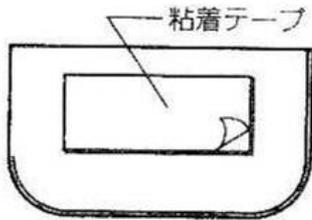
ホルダーの取り付けかた

壁紙や車のダッシュボードに取り付ける時は、付属のホルダーのはくり紙をはがして、ホルダーを固定してから本体を設置してください。

取り付ける場所のほこり・よごれを良く落としてください。

ホルダー裏の粘着テープのはくり紙をはがしてください。

ホルダーを壁面、ダッシュボードに固定してから本体を設置してください。



ご使用の注意

本機は精密機器ですので、強い衝撃を与えないでください。
分解したり、改造したりしないでください。
次のような場所では使用しないでください。

水中

水中やその他の液体がかかるような場所

温度は+80 以上になる場所

(ストーブなどの熱風が直接当たるところや、締め切った自動車内への放置など)

温度が-30 以下になる場所

強い磁気のある場所

(高圧電線、テレビ、大型モーター、大型スピーカーなどの近く)

振動の激しい場所

日常のお手入れについて

ケースの汚れを落とすとき、シンナー・ベンジン・ミガキ粉、スプレー式クリーナー
各種ブラシなどは使用しないでください。油汚れなどは、やわらかい布に
中性洗剤を浸し、よくしぼってから拭き、乾拭きをしてください。